相生山緑地 オアシスの森 ガイドブック

相生山緑地
オアシスの森くらぶ

相生山緑地と オアシスの森

相生山緑地は、名古屋市の東部に広がる丘陵地にあって市中心部から東南約10kmほどに位置しており、周辺はすべて区画整理事業によって宅地化が進んでいます。当緑地は、戦時下の昭和15年12月、当時の防空法と連動し防空緑地として都市計画され、以後数度の都市計画決定を経て、現在の形（面積123.7ha）に至っています。

緑地は、東西に走る標高10 ～ 60mの3つの台地と2つの谷筋から成り立っており、アカマツやコナラなどを主体とする雑木林が広がっています。ただ、最近では放置竹林の拡大やカシノナガキクイムシによる枯死木などの問題が顕在化しています。

“相生山緑地オアシスの森”はこの相生山緑地の北部樹林地（約20ha）の地区を指し、借地手法を駆使した名古屋市独自の“オアシスの森づくり事業”第1号地として、1998年3月22日に開園しました。

森からの眺望

夏

冬

シンボルツリーの1年

相生山緑地 オアシスの森くらぶ

オアシスの森開園に先立つこと2年、1996年3月に「第1回柴刈り大会」が開催されました。これは名古屋市が雑木林保全活動の基本である“柴刈り”を「この指とまれ」方式でやろうということで、専門家集団である「雑木林研究会」の協力を得て実施したものです。以降、地域の人たちにも呼びかけ、市民、企業、行政のパートナーシップにより年間2～3回のペースで実施してきました。

これと並行して、雑木林の管理手法を学び、継続的に関わる「人づくり」の場となるよう「雑木林インストラクター養成講座」（入門編、応用編）等を開催してきました。相生山緑地オアシスの森の開園と同時に、これら講座の受講生や柴刈り大会参加者のメンバーが中心となって、会員120名で「相生山緑地オアシスの森くらぶ」が誕生しました。会員の中には雑木林の魅力にひかれ、より身近な場所で森づくり活動を始めた人も多いようです。その意味からも当地は、名古屋における市民参加の森づくりの原点とも言えます。

当くらぶは、毎年、名古屋市と「緑のパートナー」協定を締結して、活動しています。

柴刈り後の明るい森

柴刈り前の暗い森

オアシスの森くらぶの歩み

1996年　3月　第1回柴刈り大会
1997年　2月　雑木林インストラクター養成講座を開催
1998年　3月　相生山緑地オアシスの森開園　「森くらぶ」誕生
1999年　7月　建設省（現、国土交通省）より、「平成11年度手づくり郷土（ふるさと）賞」を受賞
　　12月　名古屋市都市景観賞「市民活動賞」を受賞
2001年　10月　第21回緑の都市賞「審査委員長奨励賞」を受賞
2006年　7月　名古屋市と「緑のパートナー」協定を締結
　　11月　国土交通省中部地方整備局より「中部の未来創造大賞（優秀賞）」を受賞

その他、現在に至るまで、日本財団、ニッセイ緑の財団、財都市緑化基金などより各種の助成を受ける。また、熊本市、帯広市、浜松市、西尾市、セネガル共和国、ケニア共和国等多数の視察団体を受け入れる。

オアシスの森 の仲間たち

相生山緑地は、市街地の中に浮かぶみど りのオアシスです。まとまりのある緑は私たちに憩いと安らぎ、涼風や四季の変化を与えてく れるばかりでなく、ここに住む多様な生き物たちの楽園でもあります。オアシスの森の仲間 たちを少し紹介してみましょう。

アオキ　常緑低木
（実:10月～4月）

アオスジアゲハ

アケビ　落葉つる植物
（花:4～5月、実:9月～10月）

アズキナシ　落葉高木
（花:5～6月、実:10～11月）

ウスノキ　落葉低木
（花:4～5月、実:9月）

キミノズミ　落葉小高木
（花:5～6月、実:10月）

コバノガマズミ　落葉低木
（花:4～5月、実:9月～10月）

クチナシ　常緑低木
（花:6～7月、実:12～3月）

コバノミツバツツジ　落葉高木　（花:4月）

ツルグミ　落葉高木
（花:10～11月、実:5月）

ネジキ　落葉小高木
（花:6月）

ヤマハゼ・ヤマウルシ　落葉高木
（紅葉:10～11月）

コナラ　落葉高木
（花:4～5月、実:10月）

タカノツメ　落葉高木
（花:5～6月、黄葉:11～12月）

アゲハチョウ

エナガ

キジ

コシアキトンボ

コゲラ

ジョウビタキ

タマムシ

チョウトンボ

トノサマガエル

ヒキガエル

ヤマガラ

チャート（岩石）

相生山緑地案内地図

天白もりのフォーラム

『天白・もりのフォーラム』は、名古屋市天白区内にある豊かで貴重な自然をフィールドとして活動している市民グループ9団体と行政機関の連携組織です。身近な自然に親しみ、市民・市民グループ相互が交流できるイベントや情報発信を行っています。

＊天白・川辺の楽校（天白川）
＊平針探鳥会（荒池緑地）
＊相生山緑地オアシスの森くらぶ（相生山緑地）
＊相生山緑地自然観察会（相生山緑地）
＊白玉星草と八丁トンボを守る島田湿地の会（島田緑地）
＊東山自然観察会（東山公園）
＊てんぱくプレーパークの会（天白公園）
＊平針自然観察会（荒池緑地）
＊天白エコアンサンブル（天白区内）
（　）内活動フィールド

〈企画・編集〉相生山緑地オアシスの森くらぶ
ホームページ　http://f44.aaa.livedoor.jp/~oasis/
〈発行〉天白区役所まちづくり推進室
天白区島田二丁目 201 番地　TEL/FAX 807-3824
〈発行年月〉平成22年8月
表紙写真提供：国際総合企画㈱

竹林管理活動

日本では古くから、モウソウチク・マダケ・ハチクなどの竹林が人里近くの里山にありました。

竹は筍を食用とするばかりでなく、農業資材や日用品、工芸品などの材料として無くてはならないものでした。しかし、昭和30年代以降、プラスチックなどの代替品の普及によって、竹の利用はすっかり影をひそめてしまいました。一方、用がなくなった竹林は放置されることで、竹が密集してしまい、良いタケノコが出なくなるばかりでなく、周囲の雑木林に拡大を始めました。わずか2～3ヶ月で10mを越す成竹になってしまう竹は、雑木林を荒廃させる原因の一つとなっています。

健全な竹林の育成には、継続的な手入れが必要です。「オアシスの森くらぶ」では、相生口や山根口の竹林の手入れを定期的に行い、健全で美しい竹林づくりを目指しています。

あなたも竹林管理作業で気持ちのいい汗をかいてみませんか。

ハチクの筍

マダケの筍

モウソウチクの筍

清々しい夏の竹林

5年生以上の古い竹を伐り、傘をさして歩けるくらいの本数に管理します

炭焼き

オアシスの森くらぶでは、良好な里山景観を保つため定期的に竹の除伐を行っており、その竹の有効利用として竹炭焼きにも取り組んでいます。竹炭の作り方は、竹を一定の長さに切りそろえて窯の中に入れ、窯口で薪を燃やして窯の温度を上げ水分を抜いていきます。煙の色の変化に注意しながら、竹が燃える直前で窯口を塞ぎ、空気を遮断して炭にします。

約8時間と短時間で完成できる竹炭は火付きも良く30分程度は火力を保持しますから、調理などに大変重宝します。また、冷蔵庫などの脱臭剤や畑の土壌改良など幅広く使用でき二酸化炭素の固定の面からも効果があります。煙を冷却して採取した竹酢液は殺菌・消毒作用があり、水虫退治に有効です。

森くらぶでは、常設の窯を設置しており、冬場に炭焼きを行っていますので参加してみませんか。

竹割り

竹炭焼き

ツツジの小径づくり

相生山が里山として人々の暮らしに利用されていた頃、春になると山全体がツツジ色に染まったそうです。しかし、昭和 30 年代の「燃料革命」以降、里山は利用されなくなり、木が茂り、暗くなり、やがてツツジも花を咲かせなくなりました。

ツツジはやせ地にも耐える木ですが、日照を好む植物なので、森が暗くなると花芽を付けなくなります。オアシスの森のツツジの小径も、以前はコナラやヒサカキが茂り、その陰でツツジたちは、花芽を付けられず、ひょろひょろと細長く、また、立ち枯れているものもありました。

オアシスの森くらぶでは、ツツジの小径を復活させようと、枝打ちや、徐伐を行い、光環境を良くしました。するとツツジは元気を取り戻し、花芽をびっしり付けるようになりました。また、落ち葉かきなどの作業で日光が当たるようになった地面からは、実生のツツジも現れました。春になるとオアシスの森では、コバノミツバツツジ、ヤマツツジ、モチツツジが次々と開花します。

皆さんもぜひお越しください。

落ち葉かきで林床のツツジを育てる

ピンク色に染まる「ツツジの小径」

コバノミツバツツジ

ヤマツツジ

モチツツジ

アカマツ林 再生プロジェクト

かつて里山の尾根に必ず見かけられたアカマツ林。しかし近年では里山が手入れされなくなり、落ち葉が厚く積もり、樹木が密生し暗くなってきた尾根筋ではマツクイムシ被害が進み、枯れマツが目立つようになってきました。本来アカマツは、やせて乾燥した尾根筋で、菌根菌と共生しながら生育していました。落ち葉が厚く積り土壌が富栄養化すると、この菌根菌が活躍できなくなり、やがてアカマツも衰退していきます。アカマツ林に生えるといわれるマツタケも、この菌根菌の仲間なのです。「オアシスの森くらぶ」では、2001 年より、こうしたアカマツ林を再生するために、右の活動をすすめています。

アカマツ林再生プロジェクト

①倒木の危険性のある枯れたアカマツを伐採し、片付けます。
②林床に積もった落葉や腐葉土を取り除く「ゴウかき」という作業で、アカマツの生育に適した貧栄養な環境を整えます。
③実生苗を保護するとともに、生育を助けるための除伐を行い、光環境を改善します。

2001 年の再生活動

アカマツの母樹も心なしか元気に…

2002 年のアカマツの実生

2010 年、たくさんのアカマツの幼木が再生しました

生物多様性と 環境学習

相生山の森には水辺がほとんどないため、森くらぶでは山すその地面を掘り、「トンボ池」を作りました。水源は雨水だけですが、春には森に生息するヒキガエルの産卵場所となり、夏を迎える頃にはヤゴから育ったシオカラトンボ、ギンヤンマなど多くのトンボたちが水面で戯れる姿が見られます。最近では、トノサマガエルも戻ってくるようになりました。

トンボ池でヤゴの観察

一方森の中には、竹囲いの中に森の落ち葉を集めて作った「ビートルアパート」もあり、カブトムシの幼虫など森の生き物たちの格好のすみかとなっています。落ち葉は分解され腐葉土となり、畑の肥料として利用しています。

「トンボ池」や「ビートルアパート」など、森の整備をすることで生き物の生息空間を広げることにつながり、森の物質循環や生物多様性を体感できる環境学習の場ともなっています。

ビートルアパートに落ち葉を入れる

どんぐり祭り （地域とのふれあい）

森の木々が紅葉（黄葉）する秋、毎年10月の第4土曜日はオアシスの森を会場として「どんぐり祭り」が開催されます。専門家の指導による木のぼり体験、森の木や竹を使ったクラフト教室、親子でノコギリを持っての柴刈り体験、森の自然観察などなど、1日を通して楽しんでいただけます。

子どもたちに人気のメニューの1つに、丸太切り競争と森くらぶオリジナルの焼印を押したペンダント作りがあります。また昼には、会員手作りのトン汁や焼きシイタケなどを楽しみ、森のコンサートも開かれます。

森くらぶでは、この他にも春の新緑の時期に「萌木まつり」、秋に「天白区民祭り」など地域の皆さんとのふれあいの機会を大切にしています。

丸太切り競争

森のコンサート

相生山緑地オアシスの森 百景

春

ヤマザクラ、ツツジ、ガマズミ…色とりどりの花で彩られた森に多くの人たちが魅了されます。
森くらぶでは、4月の総会で1年間の活動スケジュールが決まり、新しい年度がスタートします。

▲ヤマザクラ

▲ツツジの園

◀コバノガマズミ

▼クチナシの実

▲森くらぶの活動を広く知ってもらうための案内板

ショウジョウトンボ

6月はトンボ池まわりの草刈りなどの維持管理を行っています。

▲手づくりのトンボ池

◀カブトムシの幼虫の住処となる「ビートルアパート」

カブトムシ

ヒメボタル

▶手づくりの小径

夏

カブトムシ、クワガタ…少年たちの心をくすぐる季節の到来です。まちなかは猛暑でも、葉の生い茂った森は意外と涼しいものです。
とはいえ、この時期森での活動はやっぱりツライ!…ということで、クラフト講習など室内での活動を行ったりもしています。

フジバカマを訪れるアサギマダラ

▶クラフトで作った巣箱。この後、もちろん森に設置されました。

▲手づくりの窯で竹炭焼き

▲森の生長具合を調査しています。

▲作業場として、休憩や宴会(?)の場としても最適なウッドデッキ

▲山根口の竹林

森で出会えるさまざまな自然の光景とともに、
私たち森くらぶの取り組みをご紹介します。

秋

夏の暑さが和らぐと、黄や紅に色づいた森を散策する人がまた増えてきます。

▲木登り体験

▲紫刈り体験

秋といえばやっぱり祭り。10月には“どんぐり祭り”と銘打って地域の子どもたちとめいっぱい遊びます。

▶シンボルツリー「コナラの大木」

▲まるで蜻蛉野のような相生口の竹林

▲どんぐりみこし

▲八事の蝶々づくり

▲クラフト(竹のおもちゃづくり)

▶アカマツ林からまちなみも望めます

12月には正月を迎える準備として門松を作り、山根口に飾ります。

2月は、マツクイムシなどで弱ったアカマツ林の再生に取り組んでいます。

▲整備によって芽を出した松の苗木

3月の“萌木まつり”では周辺で同様の活動を行っている「仲間」を誘い、森の恵みを食しながら交流しています。

▲梅の剪定